

# 経直腸的前立腺生検

を受けられる患者様へ

前立腺は、膀胱からの尿の出口をとり囲むように存在する男性生殖器の一つです。最近我が国では前立腺疾患が急増しています。血液検査でPSA(前立腺特異抗原)という物質が高い時は前立腺肥大症や炎症、さらに癌が疑われます。血液検査、触診や超音波検査なども癌の診断をする手段ですが、いずれも疑いにとどまるだけで確定には至りません。前立腺癌の診断を確定する唯一の方法は、前立腺の細胞を採取することです。

それが経直腸的前立腺生検です。

### 実際の生検方法

肛門から直径約3cmの超音波装置を挿入し、まず前立腺内部の様子を調べます。その後、直腸から直径約2mmの生検針を前立腺に向かって6~12箇所、超音波で観察しながら穿刺し組織を採取します。また、約2mmの針を6~12箇所穿刺しますので痛みを伴うことは言うまでもありません。当院では痛み軽減、合併症予防の為、手術室に於いて全身麻酔下に行います。(麻酔は麻酔科の医師が担当します)

その為、検査前日に入院し、翌日に退院、つまり2泊3日の予定で入院して頂きます。

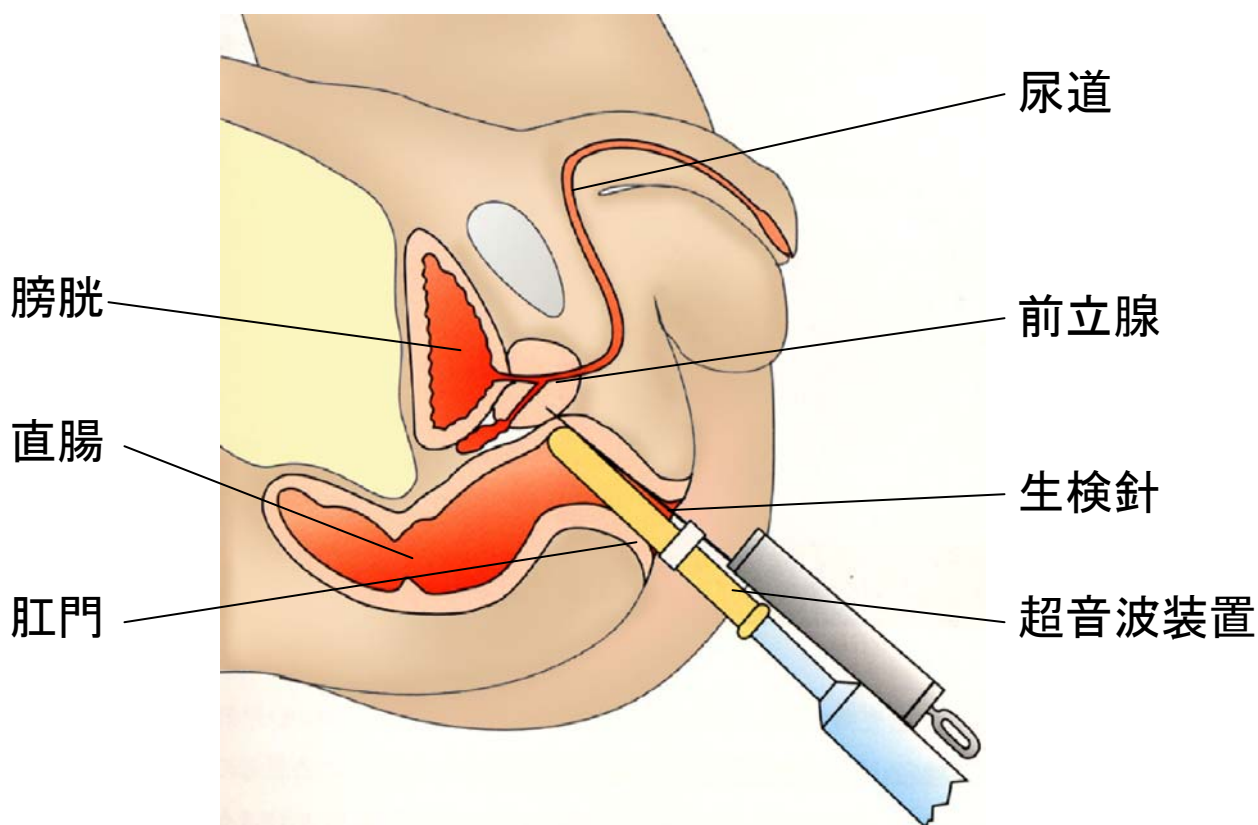
## 生検の結果

### ～癌が検出されなかった場合の注意点～

生検の結果は約1～2週間で判明します。結果については退院後外来にてご説明いたします。

癌が検出された場合は、病気の進展度(広がり)を検査した上で、最も適切と思われる治療法の相談をご本人・ご家族を交えて行わせていただきます。

癌が検出されなかった場合ですが、癌が存在しているのに針が当たらなかつたり、非常に小さな病巣で発見できないこともあります。見つからなかった場合でも、定期的な血中PSA検査(3～12ヶ月ごと)を受けることをお勧めします。また、生検後も疑わしい場合は3～6ヶ月後に再度生検を受けていただく場合もあります。



## 合併症

### <血尿>

前立腺は膀胱の出口にあり中心を尿道が通るため、生検後に血尿となることがあります。通常は2、3日で消失します、しかし血尿が強い場合は入院期間を延長して対応する場合があります。また、退院後に血尿を認めることがあります。心配はありません、水分を多めに取って対応していただければ消失します。(3～4日間持続するようならば受診してください)

### <発熱>

大便の通り道から針を刺しますので細菌を前立腺内部へ押し込み前立腺炎を引き起こすことがあります。その為点滴や経口で抗生剤を投与しますが、発熱がひどい場合は入院期間を延長して対応する場合があります。

### <尿道出血・血精液症>

退院後、下着に血が付いたり、尿の出始めに血が出たりすることがあります。また精液に血が混じり、赤色から茶褐色になることがあります。これらの症状がしばらく続くこともありますが、通常健康への影響はありません。

### <肛門出血・下血>

針を直腸粘膜に刺しますので下血することがあります。通常は自然に止血されますが、ごく稀に血が止まらず止血操作が必要となる場合があります、入院期間を延長して対応する場合があります。

### <尿閉>

生検により前立腺に炎症が起こり尿道が圧迫され排尿障害が起こることがあります。さらに悪化すると尿がでなくなる状態、尿閉になることもあり、その場合は尿道カテーテルを挿入し対応します。

### <生検後の注意点>

生検によって前立腺は炎症を起こします、その為以下のことを守ってください。

アルコールは2～3日は控えてください、血管を拡張する作用があり炎症を助長することがあります。自転車・バイクも1週間は乗らないでください、機械的に炎症を増悪させることがあります。

また、細菌感染予防のため3～5日間抗生物質を服用していただきます。

その他、何か不明な点・不安な点がございましたら外来にご連絡下さい。

日本医科大学附属病院 (代表) 03-382282131

8:00~16:30 泌尿器科外来

16:00以降 救急外来受付